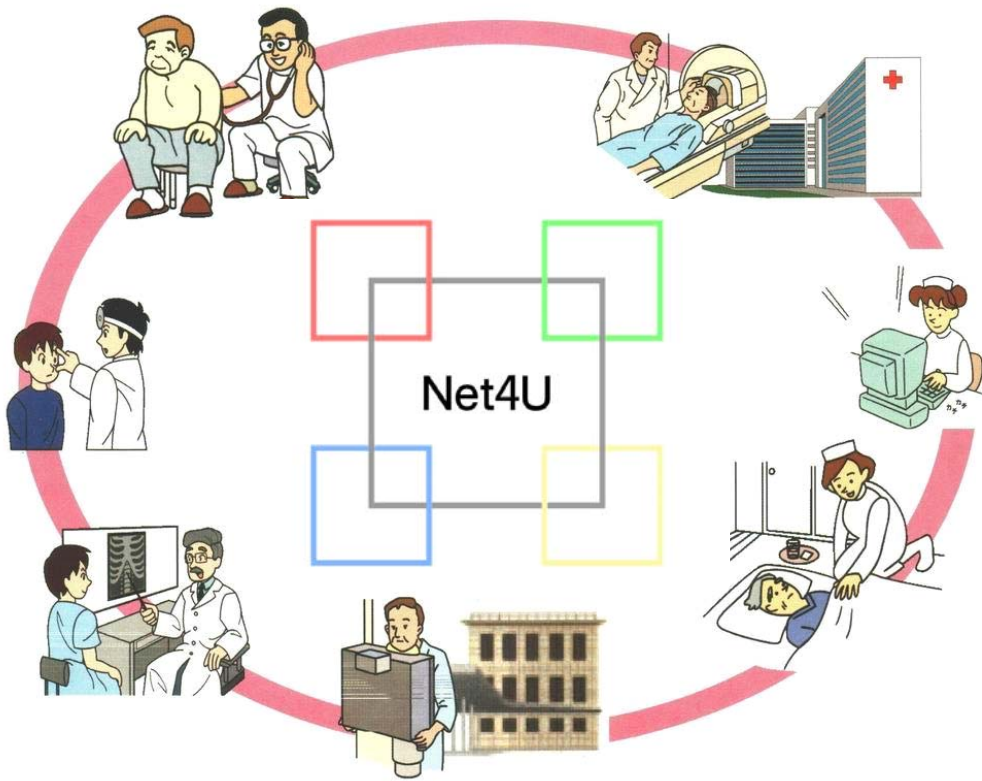


# めでいかすどる Medicastre



鶴岡地区医師会

21年 2月号

# 鶴岡地区医師会新年会

日時：平成 21 年 1 月 16 日(金)

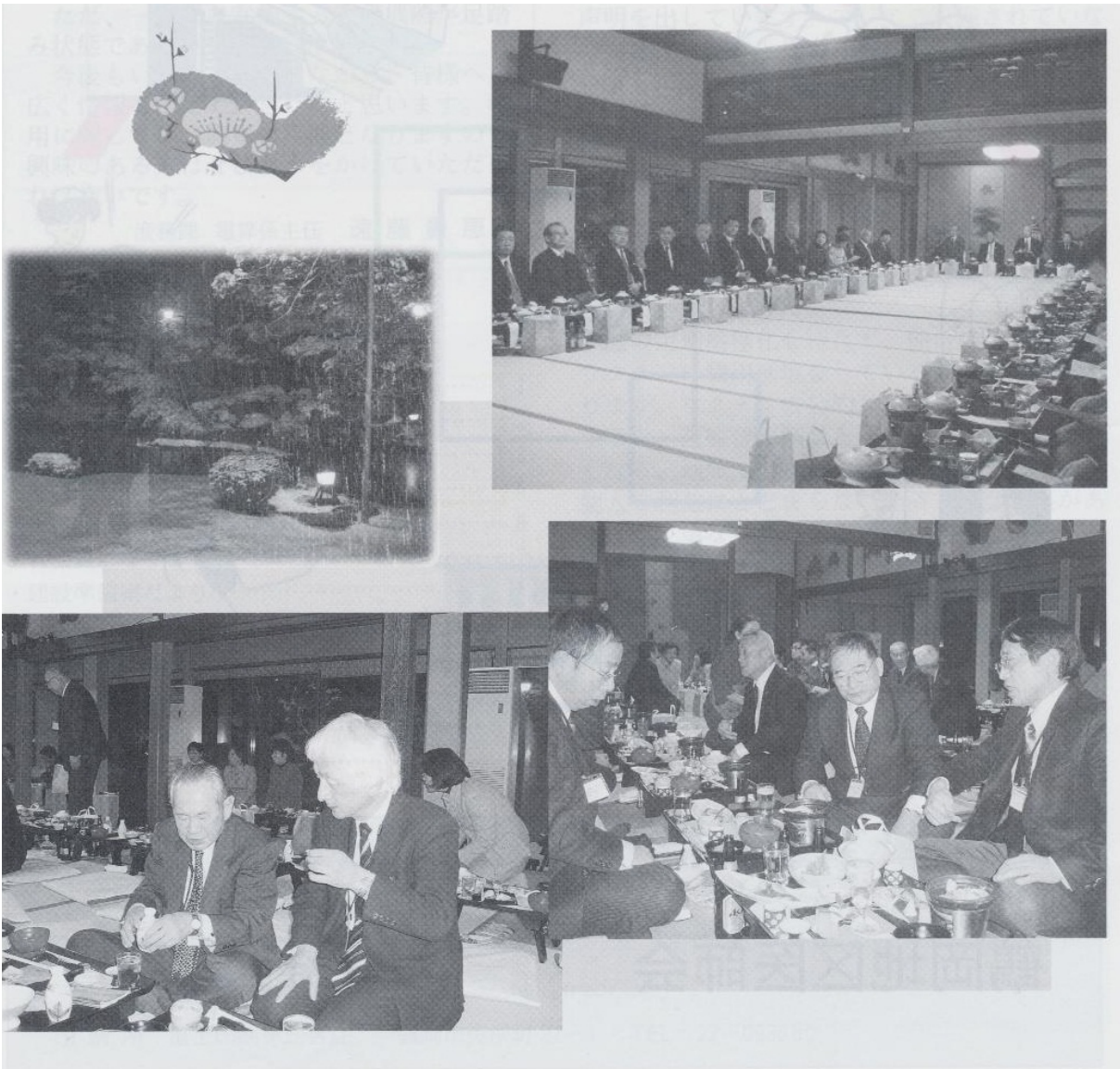
場所：新茶屋

恒例の医師会新年会がご来賓、会員、職員、総勢 94 名の出席のもと、新茶屋さんにて盛大に開催されました。

夕方から勢いを増して降り積もった雪は、大庭園をみるみるうちの冬景色に変え、雪吊りの縄に器用に乘った雪がライトアップされ、今まで何十回と眺めた中でも特に美しい景色と感じました。

「鶴岡はどこにも負けないくらい医師会と行政がうまくいっている」中締めという言葉どおり最後まで和気藹々と会は続き、100 年に一度の不況といわれている昨今ではありますが、「市民の健康を守る」というひとつの目的に向かって更に心をひとつにできた意義のある会ではなかったでしょうか。

在宅サービスセンター 金内真紀子



◆◆連載 庄内プロジェクト 第5回◆◆

庄内プロジェクト：各種研修会・講演会の開催状況

～緩和ケア・スキルアップ研修会～

日本対がん協会 庄内プロジェクト

研究員 佐藤久美

鶴岡地区医師会会員の皆様はじめまして。平成20年4月に開設されました庄内病院 地域医療連携室内の緩和ケアサポートセンターにお世話になっております、佐藤久美です。普通のおばさんが「庄内プロジェクト研究員」という重たい肩書きを頂戴してから早1年！が過ぎました。肩書きにふさわしい自分になるため日々研究中です。この紙面に載るに値する自分を目指して『CHANGE!』の1年にしたいと思います。

平成20年4月から活動開始しました「緩和ケアの普及のための地域プロジェクト」(庄内プロジェクト)で開催されました研修会のご報告をさせていただきます。

初回は庄内病院の職員のみ対象で開催していましたが、2回目からは鶴岡地域全体の医療従事者のスキルアップをはかるため広く院外にも案内し、現在では毎回100人前後の方に参加いただいております。

また、終了後にはアンケートをとり、研修会前後の緩和ケアについての理解度の比較や、参加してのご感想、次回取り上げて欲しい内容などのご意見をいただき、皆様のニーズにあった研修会になるように努めます。

12/14(金) 18:30～20:00	第1回 緩和ケアスキルアップ研修会 ◆ 「オピオイドの使い方」	参加人数:院外4人・院内79名・以上83名 講師:庄内病院 鈴木聡先生・阿部和人薬剤師
3/4(金) 18:30～20:30	第2回 緩和ケアスキルアップ研修会 ◆ 「オピオイドの使い方 その2」	参加人数:院外84名・院内55名 計139名 講師:庄内病院鈴木聡先生・阿部和人薬剤師
4/18(金) 18:30～19:45	第3回 緩和ケアスキルアップ研修会 ◆ 「緩和ケアにおける消化器症状のマネジメントと消化器癌の緩和ケアの特徴」 ◆ 「痛み以外の身体症状に対するマネジメント」	参加人数:院外75人・院内70人 計145人 講師:鶴岡協立病院 高橋美香子先生 講師:庄内病院 鈴木聡先生
5/14(水) 18:30～	第4回 緩和ケアスキルアップ研修会 ◆ 「がん終末期患者の精神的苦痛の緩和」 ◆ 「訪問看護の役割と現状」	参加人数:院外98人・院内64人 計162人 講師:県立鶴岡病院院長 灘岡 壽英先生 講師:ハローナース所長 長谷川典子
6/24(火)	第5回 緩和ケアスキルアップ研修会 ◆ 「緩和ケアにおける尿路管理について」 ◆ 「腎臓の管理について」 ◆ 「緩和医療における形成外科の役割」	参加人数:院外88人・院内53人 計141人 講師:三浦クリニック院長 三浦道治先生 講師:庄内病院泌尿器科外来看護主任 長谷川いつ主任 講師:庄内病院形成外科 島田茂孝先生
7/29(火)	第6回 緩和ケアスキルアップ研修会 ◆ 「終末期の輸液と鎮静ーガイドラインを読み解くー」 ◆ 寸劇「庄内病院から我が家へ帰ろう！」	参加人数:院外89人・院内54人 計143人 講師:鶴岡協立病院 高橋牧郎先生 演者:庄内緩和プロジェクト推進委員
8/18(月)	第7回 緩和ケアスキルアップ研修会 ◆ 「がん緩和ケアにおける認定看護師の役割」	参加人数:院外59人・院内32人 計91人 講師:日本海総合病院 緩和ケア認定看護師 村上祥子先生

	◆ 「在宅主治医としての緩和ケアへのかかわり」	講師:岡田医院 岡田恒人先生
9/29(月)	第8回 緩和ケアスキルアップ研修会 ◆ 「モデル地域の緩和ケアプロジェクト進捗状況～地域連携の実際」 ◆ 「がん終末期患者の栄養管理について」	参加人数:院外 59 人・院内 32 人 計 91 人 講師:がん戦略研究推進室研究員(プロジェクトマネージャー) 山岸暁美先生 講師:荘内病院 松原要一先生
10/28(月) 18:30～ 19:30	◆ 第9回 緩和ケアスキルアップ研修会 「がん緩和ケア事例から学ぶ看護師の役割」	参加人数:院外 55 人・院内 78 人 計 133 人 講師:静岡県立静岡がんセンター 看護部長 青木和恵先生
11/26(水)	◆ 第10回 緩和ケアスキルアップ研修会 「緩和ケアの地域連携の問題点を探る」	参加人数:院外 22 人・院内 22 人 計 44 人 グループ討議 講師:荘内病院 鈴木聡先生
12/19(金)	◆ 第11回 緩和ケアスキルアップ研修会 「緩和ケアの地域連携の問題点を探る(2)」～前回のグループ討議で抽出された問題点の解決策を探ってみよう～	参加人数:院外 29 人・院内 24 人 地域担当者 4 人 計 57 人 グループ討議 講師:荘内病院 鈴木聡先生
1/28(水)	◆ 第12回 緩和ケアスキルアップ研修会 「がんとソーシャルワーク～国立がんセンター中央病院での研修から得たもの～」 ◆ 当法人における看取りの現状～病棟及び在宅からの報告～	参加人数:院外 61 人・院内 30 人 地域担当者 2 人計 93 人 講師:荘内病院地域医療連携室 佐藤正MSW 講師:鶴岡協立病院 看護師伊藤陽子先生 講師:訪問看護ステーションきずな看護師石川知子先生

## ～市民公開講座～

日本対がん協会 庄内プロジェクト

研究員 相庭 伸

地域住民へ緩和ケア・在宅ケアについての理解を深めるとともに、がん患者さんやご家族の直面するさまざまな問題解決に取り組む「地域で支えるがん緩和ケア」をテーマとした、市民公開講座を6月と11月に開催しました。

両講座とも多くの市民にご参加いただき、緩和ケアに対する関心の高さを感じました。また庄内プロジェクトや、在宅医療に関するたくさんのご意見、ご質問をいただき、市民にとって安心な医療を得られることが、在宅緩和ケアに結びついていくことを実感しました。これからは市内各地で、小規模な講演会を開催し、広い地域での緩和ケアの普及を進めていきます。

第1回市民公開講座	第2回市民公開講座
テーマ : 地域で支えるがん緩和ケア ～がんになっても自分らしくあり続けるために～	テーマ : 地域で支えるがん緩和ケア ～あなたらしく生きるために～
日時 : 平成20年6月14日(土) 13:30～16:00	日時 : 平成20年11月15日(土) 14:00～17:00
会場 : 東北公益文科大学 大学院ホール	会場 : マリカ市民ホール
共催 : 慶應義塾大学先端生命科学研究所 からだ館」がん情報ステーション	参加者 : 343名 / 一般319名・講師、スタッフ 24名 / アンケート回収207名
参加者 : 174名 / 一般116名・医療、福祉関係 58名 / アンケート回収100名	第1部 ビデオメッセージ「庄内地域の医療と緩和ケア」 国立がんセンター名誉総長 杉村 隆先生
講演 1. 「庄内プロジェクトとはー地域で支える がん緩和ケアー」 鶴岡地区医師会会長 中目 千之先生	講演 1. 「がん医療と緩和ケア」 国立がんセンター中央病院院長 土屋 了介先生
講演 2. 「がんの痛みは我慢しないで」 鶴岡市立庄内病院主任医長 鈴木聡 先生	講演 2. 「よく生きるー緩和医療の原点」 俳優 石坂 浩二氏
特別講演 「ふりかえれば未来ーホスピス・緩和ケア の歴史を読む、明日を読むー」 東札幌病院理事長 石谷 邦彦先生	第2部 緩和ケアクイズ プレゼンター / 慶應大学総合政策学部専任講師 秋山 美紀先生 解説 / 国立がんセンター中央病院緩和医療科 医長 的場元弘先生
	パネルディスカッション 座長 / 鶴岡地区医師会会長 中目 千之先生 パネリスト / 庄内保健所所長 松田 徹先生 鶴岡市立庄内病院 外科主任医長 鈴木 聡先生 岡田医院理事長 岡田 恒人先生 庄内病院看護師 富樫 清氏 ハローナース訪問看護師 本間 幸井氏

# 地域医療連携部門紹介

## 鶴岡協立病院

医療相談室 庄 司 旗 江

こんにちは、鶴岡協立病院医療相談室です。皆様には日頃よりお世話になり、感謝申し上げます。昨年5月の当院地域医療連携室に続き、このような機会を頂きありがとうございます。

庄内医療生活協同組合は、昭和39年、新潟地震の被害に対する全国からの鶴岡生協組合員に寄せられた支援の中で設立されました。そして昭和49年、この地域で初めて医療ソーシャルワーカーが配置され、相談援助活動を開始。S52年からは専任体制となり、S56年から現在の2名体制となっております。

さて、病院の相談室というと、最近は地域医療連携室と一緒にところが多くなっているかと思われませんが、当院ではそれぞれ別個の部門として独立しています。地域連携に果たす役割では、連携室がいわゆる前方支援、相談室が後方支援を主に担っております。とは言え、入院相談であっても、社会的な問題を抱えているような場合、連携室などより依頼を受け、当室でかかわることもあります。

前述のように専任の医療ソーシャルワーカー2名が、入院と透析含めた外来すべてを担当しております。業務は経済的な問題、療養生活上のこと、ご家族にかかわる問題など多岐に渡り、解決のために諸制度の活用を計る支援もしていますが、やはり近年、退院支援の占める割合が非常に大きくなってきています。院内においては医師、看護師はじめスタッフと、院外では他医療機関、介護施設、行政機関や包括支援センター、またケアマネジャーさんたちと連携して、相談者の方々に対してより良い退院支援が出来るように日々努めているところです。

昨年10月からは従来的一般病棟を一部療養病棟に転換、運用を始めています。そこでも退院支援での悩みは、特に医療依存度の高い患者様の退院先がなかなか探せないことです。在宅介護が困

難な場合、受け入れていただける施設が限られたり、ほとんどない、という状況もあります。そのような中でやはり医療機関を頼りにさせていただき、お世話になっておりますが、当院を含め、長期の入院を前提としているわけではないので、患者様が次の行き先を探さねばならない、という問題は解決しません。どうしたらいいものか、常に悩ませられるところです。

しかし、この連携の時代、同じ悩みを持つもの同士、情報交換をし、一緒に考えて行きたと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



# エー (A) 会員になりました

—新規開業医紹介— No.11

高橋クリニック 高橋 由至



平成20年11月1日に高橋クリニックを開院しました高橋 由至と申します。私は、小学校、中学校、高校と鶴岡で過ごし、平成6年に日本医科大学を卒業し日本医科大学第一外科学教室に入局しました。その後約12年間、消化器外科医として大腸外科(骨盤外科)を専門に治療に従事してまいりました。3年前故郷の鶴岡へ戻り、内科医として協立病院に勤務しながら開業準備を進め今回の開院となりました。

開院に際し、やはり一番父の助言、助力に感謝しております。父良士は小児外科医であり、現在医療法人徳州会理事や介護老人保険施設 徳州苑の施設長などを兼務しておりますが、クリニックの土地を決めることから設計、建設、医療機器などの交渉事を忙しい私に代って奮闘してくれました。またクリニックのインテリアなどにも助言があり、正直わずらわしいと思うこともありましたが、協立病院を退職後準備期間が1カ月しかなかったにもかかわらず順調に開院できたことを思えばこれもひとえに父のおかげだと思っております。こんなことは面と向かっては言えませんが。

私は末っ子長男で年の離れた姉が1人います。小さい頃から外科医であった父の背中を見て育ちました。母と姉にはかわいがられて育ちましたが、父にはあまり遊んでもらった記憶もなく父親とはそんなものかと思っておりましたが、11歳と2歳の僕の息子達に接する姿を見ていると、僕の知っている父ではないのでとてもびっくりします。僕の中では威厳があり近寄りたかった父ですが、2人の孫達にとってはなんでもわがママを聞いてくれるやさしいおじいちゃまのようです。

私は長男ということもあり小さい頃から周りに医者になるんだろうと言われて育ちました。そんなことに

反発を覚えた時期もあり、反抗してみたりもしましたが結局医者になりました。両親にうまく乗せられた感じでしたが今となっては良かったかなと思っています。大学を卒業し診療科を決める際に眼科と外科と小児科で迷い新宿の母の占いで外科に決めました。日本医大第一外科では消化器の診断から治療までを行い、また患者さんの背景を考えすべてを診るという教育方針でした。医局の方針でもありましたが、内視鏡の技術を習得できそれが私の得意分野になったこと、そのことが開業を決めるきっかけになったことを思うと新宿の母の占いはなかなかのものであったと思います。

開院して4か月ほど経ちました。勤務医時代とは違った面での判断や決定が必要とされ慣れないことも多いですが有能なスタッフに恵まれ、日々精進しております。また多くの患者さんに応援して頂きとてもうれしいです。私はスタッフをはじめ、様々な業者さん方の周りの人々に本当に恵まれました。初心を忘れることなくおらかな気持ちでこれからの長い開業医生活をがんばりたいと思っております。

妻にひげのない顔は変だと言われるので剃る予定はありません。それでも日々のお手入れはかかしていませんがいまだに父にひげのそり残しがあるぞと注意を受けます。これは剃り残しではなく私のおしゃれですとこの場を借りて言わせて頂きます。

医師会のA会員となり小さい頃よりかわいがって頂いた鈴木伸男先生をはじめお世話になってきた諸先生方のお仲間に入れたことをとてもうれしく思います。若輩者ですがこれからもご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



## 建設準備室便り

昨年12月14日に新健診センターのプロポーザル方式によるヒアリングを実施。その後の1号審査会で設計・監理委託業者を梓設計・吉田建築設計共同企業体に選定し、12月の定例理事会にて承認されました。

それを受け1月16日に職員と設計業者との第1回目の打ち合わせを行い、23年4月オープン（予定）までのスケジュール等に関する確認を行いました。

第4回新健診センター準備委員会・現健康管理センター改築検討委員会合同会議では、設計業者との打ち合わせについて等の報告、予約契約書の確認、今後の準備体制等について協議しました。体制については、2月より新健診センターの建設準備委員会と現健康管理センターの改築検討委員会を「新健診センター建設委員会」として一つにまとめ、新たに、中村・福原両理事に加わっていただき、職員側では準備室を立ち上げて計画を進めていくことが決まりました。また、会員の先生方への説明会を3月18日に開催することと、新センターの建設場所について決まりました。これらについては、1月の理事会にて承認いただきました。

今後の大まかなスケジュールですが、今年度は敷地測量・地質調査を実施し、基本構想を固めて4月からは基本設計、7月からは実施設計に入り、22年1月から解体・建設工事、23年2月に竣工予定です。

それに基づき、敷地測量・地質調査の実施、新たな検査項目の検討、他健診施設への視察等を行い、基本構想を策定していくこととなります。

これから毎号、準備室便りとして新健診センター建設に関する進捗状況を随時ご報告させていただきますと思います。また会員の皆様からのご質問・ご意見もお待ちしておりますので医師会庶務課までご連絡頂ければと思います。

皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

建設準備室 高橋 巧



## 表 紙

Net4Uについては、昨年、このめでいかすとんでも「Net4U 新時代」とし、3回にわたり特集を組んで頂きました。

すでにご存じの方も多いと思いますが、Net4Uは必要な時に必要な情報を登録・共有し、医師、コ・メディカル同士の連携をより密にし、かつ、患者様に対しては、より安心で安全な医療を提供することができる仕組みとなっています。最近では「庄内プロジェクト」や「地域連携パス」で登録された患者様も数多くあり、全国的にも注目を集めております。

稼働から丸7年が経ち、登録患者数や複数の医療機関での共有患者数も着々と伸びており、先日2月7日付の読売新聞山形版ページにも記事として掲載されました。

ただ、一方では参加する医療機関が足踏み状態であるのも一つの課題です。

今後いろいろな模索しながら、皆様へと広く情報を伝えていきたいと思っております。利用に関しては、簡単に可能となりますので興味のある方はぜひお声をかけていただければ幸いです。

庶務課 電算係主任 遠藤貴恵

## ～ 編集後記 ～

小野 俊孝

大寒を過ぎ、立春を迎えました。まだまだ寒波が厳しい時期ですが、立春の響きは温かさを運んでくれます。例年のことですが、正月休みで一旦沈静化していたインフルエンザの感染が拡大しているようです。ノロウイルスが中心の感染性胃腸炎の流行も拡大中とのこと、今後も注意が必要です。

こちらはウイルスではありませんが、Hib ワクチンの問い合わせや希望者が増えてきました。このワクチンは乳幼児期の髄膜炎を中心とした重症細菌感染の原因となるインフルエンザ菌 b 型 (Hib) に対するものです。先進国はもちろんほぼ世界中で 10 年以上も前から実用化され、深刻な病気は激減しました。有効性と安全性は確立され WHO は乳児への定期接種を推奨する声明を出しています。アジアで実施されていないのは「北朝鮮と日本ぐらい」などと言われていました。関係する方々の努力のおかげで (酒田市議会では 2007 年 6 月に「Hib ワクチンの定期予防接種化を求める請願」が採択されました) 昨年 12 月より接種できるようになりました。しかし、任意接種としての認可のため、高額な費用は自己負担になります。また、ワクチンの生産量が充分でなく、必要とされるすべての子どもに対応できません。

国の定期接種化を待たず、独自に任意接種のワクチンに費用補填をしている地方自治体もあります。ワクチンの公的な補助で接種率が上昇すると、医療費の削減と保護者などの休業がなくなる、地域での疾患の流行が減少するなど、個人の利益にとどまらない経済・社会効果があります。単なる個人のみが受益者ではなく、地域社会も利益を得ることができます。

「子育てするなら山形県」、一面では軽症患者さんの時間外診療を助長するとの指摘もある一律な乳幼児医療費の助成拡大よりも、少し任意接種ワクチンへの補助に回していただいた方が有効で喜ばれるかもしれません。

編集委員：中村秀幸・伊藤末志・福原晶子・斎藤憲康・小野俊孝・渡部隆二

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail tsurumed@mwnet.or.jp

URL <http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町 27-1 TEL 22-0936(代)